

2025新年  
メッセージ

## 寄留者であるキリスト者の望み

〈ペテロ手紙二1:1~2〉

総会長 梁栄友 (武庫川教会)



新年、明けましておめでとうございます。  
2025年の新年を迎え、在日大韓基督教会 (KCCJ) に連なる全ての教会と信徒の上に、神様の豊かな祝福がありますようにお祈り申し上げます。

新約聖書中に収められている手紙は、パウロの手紙も、ペテロの手紙も、同じ形式の言葉で始まっています。ただ、パウロにしても、ペテロにしても、世間話しや一般の挨拶の言葉を用いていません。まず、『恵みと平和が、あなたがたに益々豊かに与えられるように』という最も福音的な挨拶で始めています。私たちが受けることの出来る最大なものである祝福の祈りを挨拶に代えたのです。

1節に「ポントス、ガラテヤ、カパドキア、アジア、ピテニア」など、ここで記されている地名は、その当時ローマ帝国の支配下にあった小アジアの諸地方です。使徒の働きやパウロ自身の手紙によれば、小アジアの諸地方に伝道し、教会の基礎を据えたのは使徒パウロであり、使徒ペテロもここに記されている小アジアの諸地方に伝道したのか、どうかはわかりませんが、確かにテキストの1章12節後半を見ると、使徒ペテロは、主イエス・キリストの受難とその救いについて11節まで語った後に、12節で「彼らは、それらのことが、自分たちのためではなく、あなたがたのためであるとの啓示を受けました。それらのことは、天から遣わされた聖霊に導かれて福音をあなたがたに告げ知らせた人たちが、今、あなたがたに告げ知らせしており、天使たちも見て確かめたいと願っているものなのです。」と語っています。

ペテロは小アジアのこれらの地方にあるキリスト者、教会が苦難や試練のただ中にあることを知りました。ペテロの手紙やパウロの手紙を読み通した方は、彼らがそのただ中で苦しんだ試練が、どのようなものであったか、よく分かると思います。その当時、彼らが住んでいる社会の偶像礼拝的な慣習、不道徳な習慣を受け入れないと言った理由で、その社会から村八分される、あるいは、追放を受けねばなりません。特に、小アジア地方では、多く住んでいたユダヤ人の反キリスト教的な狂信的敵意を受けねばなりません。彼らは異教社会やユダヤ人から受ける理由のない暴力や憎しみ、中傷、疑いを忍ばねばなりません。言わば、この世の富や財産と職業上の損失を受けねばなりません。1:6~7節、3:13~15節を見ると、その当時の状況がわかるのです。現代に生きている、私たちクリスチャンも、この社会において様々な形で損失を受けているか知れません。いや実際に受けているのです。

7節を見るとよく分かりますが、使徒ペテロの言葉で言えば、「信仰の試練は、火を通して精練されても」と言っています。

苦難にあるキリスト者たちとその教会へ、ペテロは勧めと慰めを与えるために、彼らの信仰を強め励ますために、また彼らの望みを燃えさせたせるために、この手紙を書いたに違いありません。ある注解書では、このペテロの手紙を「望みの手紙」と呼んでいます。この手紙は、キリスト者が受ける試練と、また祝福されたその結果、私たちに示し、そして再び来られる主イエス・キリストの栄光を私たちに教えているのです。この手紙がわたしたちの信仰の血をわきたたせるのは、21世紀のキリスト者である私たちにとっても、「望みの手紙」であり、再臨の主イエス・キリストの栄光の光で現実の暗黒を照らすようにとわたしたちに教えるからです。

最後の晩餐の席で主がペテロに仰せられた御言葉、ルカ22:31~32節を思い出して下さい。主はペテロがその夜、鶏が鳴く前に三度主を知らないと言って、主イエスを裏切ることを預言されました。しかし、その時主は彼に「わたしがあなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈った、それであなたが立ち直った時には、兄弟たちを力づけてやりなさい。」と慰めに満ちた言葉でお命じになりました。主イエスの執り成しの祈りに支えられて、一度は主を裏切り使徒の職から外れたペテロは「立ち直りました。」

主のご命令に従い、ペテロは小アジアの各地にあって、信仰の試練の中にいる兄弟たちに主にある希望を与え、力づけるためにこの手紙を書いたのです。

1節に注目して見ますと、「寄留している」という言葉がありますが、ギリシャ語では「ディアスポラ」と言い、口語訳では「仮住まいとしている」と訳されています。これは自分の国、あるいは、故郷を出て、しばらくの間異郷に住み、滞在している者を指しています。言わば、自分の国を離れて外国に住んでいる亡命者も寄留者です。そして、「散って」という言葉は、口語訳では、「離散している」と訳されています。これは言うまでもなく、その当時、自分の国、パレスチナを離れて異邦人の中に住んでいるユダヤ人で示しています。すなわち、世界の各地に散らされているユダヤ人のことです。

2025年もロシアとウクライナの戦争、パレスチナとイスラエルの戦争、そしてコロナも終息が見えない状況の中で新年を迎えています。乾いた大地のような状況の中に私たちはいます。今、多くの人々が精神的に困難な状況の中でさまよっています。その中であっても、神さまは私たちに変化を求めておられます。霊的な眠りから起き上がることを寄留者である私たちに望んでおられます。在日大韓基督教会の歴史が117年を迎え、霊的に目覚める新年になることを願っています。2025年は全国の教会の上に希望が与えられ、リバイバルがおこる年になるように祈ります。

### 2025年度 宣教師・神学生研修会

在日大韓基督教会に加入する宣教師と、伝道師試験を受験するために研修会を実施します。

- ・日 時：2025年2月23日 (主日) 17:00 ~ 2月28日 (金)
- ・場 所：オンライン (ZOOM)

- ・履修課目：KCCJ神学・宣教理念、憲法・規則、在日同胞史、KCCJ歴史、日本教会史・神学、エキュメニカル神学、KCCJ牧会・礼拝・礼典・説教など、総会行政・年金・福祉など日本生活全般
- ・問い合わせ：志願や詳細は総会事務局に問い合わせください。(金柄鍋080-4377-3927)

# 各地方会牧師副会長／長老副会長の新年の願い

## 関東地方会副会長〈金迅野 牧師〉



総会のために：寄留民・ゲールの教会として生まれ歩み始めたこと。「マイノリティである」のではなく、「マイノリティに寄り添う」教会であること。この地における平和の希求と福音とが別個のものではないこと。それらを忘却せず、キリストのからだとして世に顕すことのできる総会となら

しめてください。

地方会のために：自らの力を誇るのではなく、地方会のなかの力なき者、声なき者、痛みや寂しさや苦しみのなかにある者をこそ「真ん中」におくことができますように。そして、洗足のイエスの教えを胸に、互いに足を洗い合いながら、主による和解を顕すことができますように。各部の活動が豊かに実るなかで、分断ではなく一致を顕すことのできる群れとならしめてください。

個教会のために：寄留民・ゲールの群れとして始まった教会であることを忘れず、さまざまな背景をもって訪れる人生の旅人たちの居場所としてあり続けることができますように。とりわけ、さまざまなルーツを持つ近隣の中学生たちが抱える苦悩を受け止め、彼ら／彼女らが少しでも「重荷」をおろすことができる場がありますように。個々の霊性が高められ、祈りをともにし、互いに愛を顕し合う群れとならしめてください。

個人として：あまたの不足が、主の愛によって埋め合わせられますように。

## 関東地方会副会長〈柳町功 長老〉



2025年度は職場である大学で定年（65歳）を迎える最終年を意味します。1990年に韓国留学から戻り、最初の大学に教員として就職し通算35年間のキャリアを終えることになりました。45歳の時、2006年に洗礼を受けクリスチャンになりましたが、その後20年間は教会と大学が私の生活の根拠でした。

導かれるままに生きてきましたが、ラストの1年、神様に与えられた職場で精一杯頑張りたいと思います。と言っても力仕事は若手に任せ、肉体の衰えをカバーできる仕事中心に省力化で乗り切る予定です。

さて私は2017年、56歳の時に長老となり、2025年度には長老9年目を迎えます。所属する横浜教会での奉仕、関東地方会での奉仕、そして総会での奉仕と、さまざまな奉仕を通して多くの学びをさせていただいています。その多くは在日大韓基督教会に連なる多くの人々との出会いを通しての学びであって、大学という世界とは全く異なる空間です。

神様を主として仰ぎ見て、一つの体を構成する要素は、神様の愛によって結びつくと同時に、それぞれ役割が与えられています。個々の教会、地方会、さらに全国組織としての総会が存在し、教会内でも牧師・長老のほかの職分があります。いずれにせよ罪人であった我々がイエス様を通して罪赦され、永遠の命を得、神の民としていただいた原点は変わりありません。感謝と喜びをもって、神様の御心に叶った信仰生活が実践できればこれ以上の満足はありません。

現在私はいろいろな奉仕を担当しています。足りない部分は神様がすべて補ってくださっていると信じ、関係者の方々と心をつなげて神様に喜ばれる奉仕ができますように切にお祈りいたします。

## 中部地方会副会長〈李珍容 牧師〉



我々の主・イエス・キリストの恵みと平和が日本と韓国、そして在日大韓基督教会に共にありますように願います。

この世では戦争と分裂が絶えません。2025年にはそれぞれの国と指導者たちが欲を捨てて、互いに和解し理解して、互いに愛し合うことができれば幸いです。互いに

敵を定めて争うのではなく、考えと立場が異なっても少しづつ理解しながら関係が改善されればよいと思います。

それぞれ異なる教理と信仰の立場、また教団に属していても日本に福音を告げ知らせる主が委ねてくださった使命に従って共に連合してハーモニーと成りながらキリストの愛を实践しようとする私たちが在日大韓基督教会の努力が見本になって主のめぐみで共に調和されるこの世の諸教会と社会そして国々となれば幸いです。

豊田めぐみ伝道所は中部地方会の諸教会と信徒の皆さまの関心と愛のおかげで維持されております。いつも感謝の思いがたえません。受けるだけではなく、愛を与えて分かち合う教会となるように受けた愛を覚えながら祈っております。ただ一人の主によって連合された私たちが覚えながらそれぞれの教会に関心を持って協力するとき、主が注いでくださる恵みをもっと豊かになることと信じ望みます。

我々の愛と実践がそして我々の連合と調和が日本の社会と韓国の社会に、ひいてはすべての国々に神さまの御国を建てる基になることを願います。

## 中部地方会副会長〈李大宗 長老〉



主の御名をほめたたえます。

全能の主が一番に求めることは、一日も早く戦争が終息するように主が導いて下さることです。ウクライナでもガザでも、命が奪われている大半は兵士ではなく、平凡な市民たちです。また派兵された兵士たちも辛い状況にあるはずで、戦争が長引けば長引くほど厭世観も強くなり、不幸の連鎖が起こっているのではと胸が痛みます。

総会としてひとつになり、この愚かな戦争が一日でも早く終息するよう心を合わせ祈ること、またその祈りが天に届き、キリストの愛の力によって人々に救いと癒しが与えられますよう願ってやみません。

地方会と個教会には、在日大韓基督教会の歩みを絶えず振り返り信仰生活を守って行くことができるよう願います。日帝時代に抑圧された民が日本の地で生きる上で創造主に救いを求め、主イエスの愛に希望を見出した人々が信仰共同体を作り在日大韓基督教会を形成することができた歴史は後世に残し続けなければならないと思います。また在日大韓基督教会は一つの教派ではなく、合同教会であることも主のご計画、恵みであると思います。教派は違えども互いに救いあい、主イエスの愛の宣教に励むことができるよう主が整えて下さったことも覚えて行きたいと思います。私たちが生かされている現代にあっても、生き辛さを覚え苦しんでいる方に寄り添う個教会となり、個教会の声が地方会が吸収し一層、隣人を愛す力を高めることができるようにあればと願います。

2025年が主の前に麗しく、感謝と喜びに溢れる信仰生活を送ることができますよう切に願います。

## 関西地方会副会長〈金鍾権 牧師〉



1. 総会
  - (1) 牧会者無料健康検診及び医療支援拡大 (韓国、アメリカ教会と協力)
  - (2) ホームページ制作、映像説教制作などの支援 (未自立教会・希望教会優先)
  - (3) 宣教協力教団との効果的な協力のための実質的プログラム開発
  - (4) 牧会者安息年制度の議論の必要 (牧師のバーンアウト予防希望者に限って実施)
2. 関西地方会
  - (1) 定期的連合祈祷会 (場所: 教会巡回、オンライン)
  - (2) 牧会者の再教育プログラム (自己開発、総会と協力)
  - (3) 講壇交換 (年 4 回程度) を通して地方会所属教会の交流
3. 平野教会
  - (1) 伝道に対する信徒たちの心が開かれるように
  - (2) デボーションをする信徒が増えるように
  - (3) ベトナム人青年たちの日本定着と信仰生活の成功事例が多くなるように
  - (4) 地域社会と共にする教会になるように (地域奉仕、救済活動等)
4. 金鍾権牧師の家庭
  - (1) 夫婦の霊性がより深まるように
  - (2) ギターをよく学び、より美しい讃美ができるように
  - (3) 笑うことの多い 2025 年になるように

## 関西地方会副会長〈森克之 長老〉



2025 年を迎え平和への希望の年になりますよう祈ります。

今年は大阪教会にとって大きな転換期を迎える事となる。24 年間大阪教会で安定した牧会をされた鄭然元牧師任が昨年 11 月 10 日に名誉推戴された。隠退寸前まで通常通り説教をされ堂会を導いておられたので信徒の中では隠退された後のイメージがあまりできていなかったかも知れない。その後副牧師、伝道師の予想以上の負担や、教会内に誰も住んでいない事によるリスクなど様々な問題が噴出する。12 人の視務長老だけのグループ LINE があるが、ほぼ毎日誰かが問題や決め事を投稿するような状態である。

後任の担任牧師を探す為に 1 年前に長老の中から 5 人で人選委員会を組織し何度も打合せをしてきた。人選委員会で決定した候補者は次に 12 人の長老全員が納得されなければならない。候補の牧師任には ZOOM で長老向けに説教をして頂き質疑応答の時間を何度も作り堂会内で思いを一つにした。

名誉長老への説明会、諸職会で様々な意見を頂きながら 12 月 15 日の臨時公同議会により担任牧師招聘が決定した。私自身身長老になり 14 年目になるがこれほど緊張した公同議会は初めてであり、投票数の 3 分の 2 以上の賛成で承認された後、閉会讃美の時には涙が込み上げた。

関西地方会では京都教会も同じく今年新しく担任牧師を迎えられる。地方会で大きな二つの教会が神様の恵みの内に新しい牧師が遣わされる。教会内に新しい風が吹き、聖霊で満たされ、全信徒が新任牧師と心を一致させ喜びにあふれる教会になる事、コロナ禍で減少した信徒数が回復する事を 2025 年の年始にあたり心から祈り願います。

詩編 100 篇 2 節 喜び祝い主に仕え喜び歌って御前に進み出

## 西部地方会副会長〈韓世一 牧師〉



私たちが在日大韓基督教会総会が教会の頭であるイエス様を中心の一つになって、困難の中にある教会と牧会者、また信徒たちを助けることに関心を持って熱心に支えることが出来ますように。また、私たちの助けが必要などころに手を差し伸べ、共にする総会となり、今まで、私たちが世界の多くの教団と教会から愛と助けを受けたように、これからは私たちの総会がそのような役割ができるようにしてください。

地方会の中にある教会が常に協力するようにして、お互いをより一層知る地方会になるようにして下さい。各教会の事情を知り、一緒に祈り、お互いを立てていくようにして下さい。信徒たちの間、主にあって交わりが豊かになるようにし、すべての教会が地方会に関心を持って各行事に積極的に参加できるようにして下さい。また、牧師がいない教会には主の忠実な牧師が与えられるようにし、その教会も牧師を迎える準備ができるようにして下さい。そして、地方会各教会の信仰の継承がなされるようにして下さい。

イエス様の体である神戸教会が毎週神様に捧げるこの礼拝が、聖霊様が力強く臨まれる礼拝になりますように、また、私たちが最善を尽くして生きておられる神様に礼拝する共同体になるようにして下さい。そして私たちの共同体の生き方が神様に喜ばれる生きた生贄になるようにし、お互いの違いを認め、その弱さをお互いが満たすことができる共同体になるようにして下さい。主の僕である私たちによってイエス様の香りがこの地域に広く広がるようにして下さい。高齢の信徒たちが最後まで天国の希望と揺るがない信仰を持って暮らせるようにして下さい。

イエス様に従うことに熱心になり、日々御言葉の準備に最善を尽くすようにして下さい。常に謙虚であり、良い影響力を持って教会に用いられる者になるようにして下さい。

## 西部地方会副会長〈梁昌熙 長老〉



2024 年の 1 年を振り返ってみますと、神様からたくさんのお恵みをいただきながらも、それを自覚することなく、傲慢になり、絶えず周囲に不平不満を吐露していた自分がいたことを悔い改めます。

2025 年ほどどのような環境にあっても、神様からいただく恵みに対して、いつも感謝する自分でありたいと思います。

西部地方会においては、2024 年度に無牧教会等再建検討ワーキンググループを立ち上げましたが、一日も早く無牧教会に牧会者が立てられ、福音伝道の働きができますように願っております。また、未自立教会においても主の祝福のもと教会が益々復興成長し、自立できますようお祈りいたします。

総会に対しては、早急に総会財政の健全化が成し遂げられますように願います。各地方会を指導し、牽引する総会となりますようお祈りいたします。また、我が教団の母教会である東京教会が一日も早く葛藤を克服して、復興発展しますようお祈りいたします。

## 〈訂正とお詫び〉

福音新聞 2024 年 12 月号の韓国版の 1 面、番号の第 834 号は間違いでした。お詫びと訂正致します。正しい番号は「第 844 号」です。

## 西南地方会副会長〈尹善博 牧師〉



西南地方会10教会1伝道所全てに牧師任が奉仕なさる感謝と、その恵みと共に25年を迎えられたことを嬉しく思います。わたしには大きな共同体を築くため、先達の生きた神学を学び、個教会が抱える痛みや喜びを共に祈り、まだ見ぬ兄弟姉妹に干渉する働きが与えられていると信じています。

地方会の課題に目を向けてみますと、まず総会の祈祷課題にもありました熊本教会の建築献金について祈らなければならないと考えます。対馬めぐみ伝道所の建堂の課題も同じですね。さらに任職員会で、各教会や各教役者を助けられる支援の可能性を探して欲しいとの意見もありました。実際予算問題を解決しなければいけません、祈りの課題だと考えます。その他にある問題や課題も、わたしたち教役者が勇気をもって連絡を取り合い、集い合い共有することが、とても大切だと考えます。共同体繁栄の希望を見る1年でいたいと願います。

西南地方会は、平和の実現に向け共に歩む兄弟姉妹である日本基督教団九州教区・西中国教区(山口西分区)と日本キリスト教会九州中会との関係を大切にしています。特に九州教区とはUMCより託された『ジョイントプロジェクト』の形を模索しながら共に歩んできました。その軌跡と、現在『ヘイトスピーチを考える共同集会』による交わりの時間は財産です。変わらず愛による連帯と、平和の実現に向けて歩みたいと願います。

近年地方会は、東アジアの兄弟姉妹たちと関係を深められる可能性を持っています。小倉教会では華僑の方たち、博多教会ではベトナムの方たち、西南KCCではインドネシア福音宣教団が信仰を守っておられます。先日のクリスマス音楽礼拝で、華僑の方たちの賛美を聞き喜びましたが、それぞれの文化を尊重し、また助け合うことができるなら、わたしたちは共に遠くまで福音を届けられると信じています。

25年の願いごとにあたり、繁栄の希望と平和の実現の希望を共に祈り合えたらと願います。

品川教会

## 慶恵重名誉牧師が召天

### 在日大韓基督教会第1号女性牧師として奉仕



2024年12月5日、品川教会の慶恵重名誉牧師が韓国にて天に召され、姜章植牧師の司式によって葬儀が行われた。享年93歳だった。

故・慶恵重牧師は1931年韓国の清州で生まれ、長老会神学大学を卒業してから大韓イエス教長老会(統合)全国女伝道会連合会派遣で1971年来日し、京都教会伝道師(1977年まで)、1978年から品川教会で牧会して2001年隠退するまで品川教会をはじめ、関東地方会、総会のために仕えられた。

故人は1983年に在日大韓基督教会の第1号女性牧師として按手を受け、1997年には在日大韓基督教会第44総会期総会長を歴任された。また女性としてマイノリティー教会の総会長にされたことが女性の人権向上させたことが認められ、アメリカのBloomfield大学から名誉法学博士号を授与された。

船橋教会

## 金道子 隠退長老が召天

### 関東女性会や民団婦人会でも活躍



2024年12月6日、船橋教会の金道子隠退長老が天に召され、張慶泰牧師の司式によって葬儀が行われた。享年84歳だった。

故・金道子名誉長老は在日2世として1940年日本の大垣で生まれ、1946年在日大韓大垣教会の設立とともに主日学校に通い、1956年朴命俊牧師により洗礼を受けた。

1958年船橋教会に移転してから執事、2003年に長老として将立され、2010年に隠退するまで生涯船橋教会のために仕えられた。また韓国民団千葉県本部の婦人会長を長く務め、民団県本部の歴代副団長にも就任した。

特別寄稿

## 平野教会のベトナム人青年会紹介

青年会長 レホアンバオ

2016年、一人のベトナム人が平野教会礼拝に出席しました。自らの信仰を守るために教会にやって来ましたが、ベトナムにいた時に韓国人宣教師の影響を受けて韓国人に好意を持っていたため、大阪にある韓国教会を探して平野教会を見つけました。彼の心の中に宣教への思いも熱かったです。それで、日本にやって来るベトナム人を教会に誘いました。また、仕事、又は留学などで日本に来ているベトナム人のクリスチャンたちにも平野教会を紹介、少人数でしたが青年礼拝を始めました。

2018年以降、ベトナムから来日する留学生・実習生が急増しました。その中にはクリスチャンもおり、大阪市内と周辺の都市から平野教会の礼拝に出席する人が増えました。その中には、日本に来て初めて福音を聞いてイエス様を受け入れ、洗礼を受けた人も多く出てきました。徐々にベトナム人が増えて、青年会の活動も活発になりました。

青年会にはいくつかの部署があります。まず、映像チームは写真・動画などを収集して編集し、ポスターなどを制作してフェイスブック及びユーチューブなどに載せて伝道活動に用いています。また、教会のことがよく分からない人たちのために福音を紹介し、また平野教会の紹介も目的で活躍しています。賛美チームは、声で神様に感謝をしたい人たちが集まり、一台のギターで共に讃美を捧げました。ピアノ・ギター・ドラム・賛美リーダーができる色々な才能を持っている人

ちがやって来て賛美チームに合流し、とても素晴らしいゴスペルバンドができ上がりました。そして、今や他の教会での讃美奉仕もでき、多くのクリスチャンとの交流ができて何よりです。

2023年と2024年は、日本全土のベトナム人クリスチャンたちが三重県にあるカリスタチャペルで集まり、共に夏キャンプを持ち、大きな恵みを受けました。毎週平日に、仕事の後に疲れを覚えている中でも「デポジション分かち合い会」を通して御言葉を分かち合う時間を持ち、共に黙想、共に祈り、お互いを励ます時間を持っています。月・火・木・金、このような大切な時間をオンラインで実施しています。今の時代、神様の御言葉がないということは、戦場で武器を持っていない兵士のように理解し、毎日皆がお互いに声をかけ、お祈りをもって一緒に頑張っていくと呼び掛けています。神様と共に最後まで歩いて勝利を得ることを強く信じます。

